

# 血液がんの診断と治療

血液内科では、竹内、藤井、新谷、木村の専門医4名、後期研修医3名の7名で診療を担当します。主な疾患は急性白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫で、複数主治医制を導入して2名から3名の医師でひとりの患者さんを担当します。治療は抗がん剤治療による化学療法と輸血です。治療の目標は病気を消失させる寛解状態の到達でその後の治癒を目指します。

## 急性白血病の治療

急性白血病では無菌室を利用して強力な化学療法を行います。初回治療で寛解導入を行い、追加の治療でさらに深い寛解状態を目指します。

がん遺伝子検査を行い予後良好群と不良群を分別し予後不良群に対しては造血幹細胞移植を検討します。

70歳以上の高齢者では強力な治療中に重篤な感染症を合併することがあるためアザシチジン点滴とベネトクラックスの併用治療で緩やかに長期寛解の維持を目指します。

## 悪性リンパ腫の治療

月単位で病気が進行する中悪性度リンパ腫ではリツキシマブ点滴を併用したCHOP療法を行い、限局期では短期間の化学療法と放射線治療を併用して寛解状態を目指します。

年単位で進行する低悪性度リンパ腫では化学療法、リツキシマブ単剤治療、内服治療などから治療を選択して長期寛解の維持を目指します。

悪性疾患以外では血球減少症、血球増多症、出血素因を診療します。

院外からの紹介に対して早急な対応を心がけます。  
緊急を要する場合はスタッフまで直接ご連絡下さい。  
また、寛解状態の患者さんにつきましては病診連携の程よろしくお願ひします。  
原病の悪化や合併症の発症時には当院にて対応します。  
病診連携の強化に向けてさらに尽力します。



私たちが担当します！